



社団法人 日本理学療法士協会

# 富山県士会ニュース

平成17年度 3 (通算 99号)

総会員数 298名 (休会26名)

全95施設

2005.12.13 発行人 日本理学療法士協会 富山県士会  
〒936 0023 滑川市柳原149 9 富山医療福祉専門学校 理学療法学科内 ☎(076) 476 1716  
代表:塚本 彰 編集:赤尾健志 印刷:志貴野苑  
士会URL:<http://toyamapt.umin.ne.jp/> 事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp

## CONTENTS

### 中枢神経研究会



富山県理学療法士会が  
公衆衛生協会会長表彰を受ける... 2  
補装具と自立支援の関わり..... 3  
初めての症例検討会..... 4  
管理運営研修会に参加して..... 4  
富山市民ふれあい広場に参加して... 5  
北陸三県PT交流会に参加して..... 5  
理事会報告..... 6 ~ 7  
士会員の独り言 車椅子について..... 7  
第4回リハビリテーション研修会に参加して ... 8

「教育管理系研修会」を開催して..... 8  
第1回管理者会議開催..... 9  
生涯学習委員会からのお知らせ.....10  
富山県理学療法士会賛助会員名簿...11  
会員異動状況.....11  
平成17年度予定表 富山県理学療法士会 ...12  
事務局インフォメーション .....12  
職能局の窓口から .....12  
情報管理部のお知らせ・編集後記 ...12  
求人広告.....13 ~ 18

# 富山県理学療法士会が 公衆衛生協会会長表彰を受ける

富山県理学療法士会が第9回地域保健全国大会（三重県営サンアリーナ）において平成17年11月10日（木）、日本公衆衛生協会会長表彰（団体の部）を受けました。富山県内からの表彰は個人、2団体でしたが、全国では協会長表彰では231個人・30団体が表彰されました。

表彰理由は保健・医療・福祉の各分野において地域リハビリテーションや高齢者の介護予防・保健事業・機能訓練事業に協力し、寝たきり予防や介護予防に貢献してきていることの実績が評価されたものです。公衆衛生分野で理学療法士会が表彰を受けることは他県士会においてもまれなことようです。

本大会の趣旨は「全ての人々が、生涯を通じて快適な生活環境の中で、心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を築くため、全国の地域保健関係者が一同に会し、地域保健の今後の展望と問題点を検討することにより、今後の地域保健対策の充実と実践活動の効果的な推進を図る。」としています。

現在、高齢社会の中、富山県内においても県民の健康増進のための健康づくりが住民主体で始まり、各地域で展開されようとしています。このような状況の中で理学療法士が「健康についてどのような事ができるのか」を考えて行く必要性を感じました。

この表彰にあたり推選をいただきました県医務課に感謝申し上げますとともに、寝たきりゼロキャラバンでの寝たきり予防や転倒予防指導、介護老人福祉施設職員への研修会開催や機能訓練事業等にご協力いただいた県士会員と関係各位に感謝いたします。





## 補装具と自立支援の関わり

氷見市民病院 水上 正樹

10月23日（日曜日）、富山県義肢製作所・富山県福祉用具販売所の協力のもと、厚生連高岡病院で、「下肢装具と自立支援」についての研修会が行われた。

装具に関わる保険の流れや、一般的な装具からスポーツ装具、膝継手・足継手等の紹介や説明があった。実際に装具を手に取り装着できる時間もあり、普段目にする事のない装具や最新の装具に触れることができた。

1番印象に残っているのは、「歩行分析」という客観的な評価から生まれた新しい概念の装具で、その名はゲイトソリューション（短下肢装具）。油圧により踵接地時の底屈の動きを制動し、滑らかな体重移動を可能とすることにより、自然に近い歩容を得ると同時に左右の対称性、バランスのとれた歩容を実現する。きれいに歩ける。つかれない。歩行速度の増加、などの効果を得ることができる最先端の短下肢装具であることを、実際の装着映像とその説明を受けたことである。

装具は障害を受けた機能を補完するものであるが、万能ではない。使う方の意欲や使いこなせるかどうかの能力も関係し、実際使っているいろいろ変化してくることも多い。「装具のおかげで歩行が楽になった」「生活の範囲がひろがった」等の声を耳にすることも臨床場面ではある。適切な状態、適切な時期に適切な装具を用いることが大切であることを再確認することができた研修会であった。

我々は、障害のある方や高齢者の日常生活が円滑に営めるように日々、治療や指導・相談等に関わっている。その中で、決して生活を規制することではなく、あくまでも主体は生活者としての本人であり、その家族だということを常に認識しておかなければならない。

生活者の視点で立脚してこそ、真の自立支援を行うことができることを忘れてはならない。



## 初めての症例検討会

山田温泉病院 理学療法士 平井 俊輔

今回、理学療法士になって初めて中枢神経研究会のケース・スタディに参加させて頂きました。ケース・スタディでは、始めに症例(患者様)のビデオを各自、自分なりに分析し、次に分析したことについて各グループに分かれてディスカッションを行いました。そしてディスカッションにて症例の問題点を考え、目標をたてて、治療プログラムを作成し、各グループごとに発表しました。最後に、実際に行っている治療場面をビデオにて確認しました。

ディスカッションを行った中で感じたことは、セラピストによっていろいろな考え方があるということです。自分では思いもつかなかった分析・評価をされている方もおり、症例(患者様)に対する柔軟な考えが必要であると思いました。しかし、実際に臨床で治療を行う中で、患者様の状態について分析・評価が不十分な事が多く、結果として問題点が見えなくなり、目標に向けての治療が進まなくなることもあります。そういった時は、一人で考え込まず、先輩方やOT・STといった他職種の方々にも相談し、意見を交わしています。そうすることで見えなかった事が見えたりします。

最後に、今回のケース・スタディに参加させて頂き、多くの意見や考え方を聞き、いろいろな側面から症例(患者様)の印象や問題点・目標・治療を考えることができ、とても勉強になりました。同時に、自分自身に足りない事も浮き彫りとなり、課題も見えてきました。今後は、研修会で学んだことを臨床の場面で活かし、少しでも患者様の役に立てるようになりたいと思っています。

## 管理運営研修会に参加して

誠友病院 中曽根怜子

10月21・22日の2日間、サンシップとやまにおいて管理運営研修会「リハビリテーション部門のマネージメント」が開催され、5名の講師の先生から貴重な講演を頂きました。

1日目の「管理学」では、理学療法の場合、どれだけ多くの患者さんを、どれだけ高いレベルにまで回復できたかによって管理の良否が問われること、また作業を行なう上で目標設定がいかに重要であるかを改めて感じました。

次の「行動分析学」は、問題が生じた時、目的とする行動と周囲の環境を調整することで具体的解決をはかる方法です。私も臨床場面で患者さんを理解できず苦勞することがありますが、自分から相手を理解し、人間関係を築く上で有効な方法であると思いました。

2日目の「部門の運営管理」では、講師伊藤隆夫先生により初台リハビリテーション病院の取り組みが挙げられ、質の高いケアを提供するための人員配置・サービス体制の工夫や実際の日常生活訓練場面など、その取り組みは非常に興味深いものでした。

「リスクマネージメント」では、事故が発生した時は直接的原因のみならず様々な角度から原因分析し、対策を考えることが必要だと教わりました。

私は今まで「管理・運営」に対して漠然とした難しいイメージを持っていました。しかし研修を終え、自分にできることは、業務を効率的に行い、治療では目標を掲げ達成に努める、又常に現状を見返り修正していくことではないかと思いました。今後この研修で得たことを日々の業務に活かし、理学療法士として自分自身も成長していきたいと思いました。

最後になりましたが、講師の先生方、運営にあたられた先生方、お疲れさまでした。

## 富山市民ふれあい広場に参加して…

去る9月17日(日)に、とやま自遊館裏の富山駅北親水公園で『富山市民ふれあい広場』に県士会5名で高齢者疑似体験、車イス体験を行ないました。

当日は、思ったよりも日差しが強く、風もあり、残暑を感じながらの活動となりました。

会場に到着すると、すでにフリーマーケットコーナーにはたくさんの衣類や小物が並び、それを求める人たちが大勢いました。そして、奥の方へ進むにつれ、人の数は少なくなっていき、私たちのコーナーは端っこの人通りの少ない所だったので、「どうなるんだろう…」と心配しながら準備をしていました。すると、一人の女性が近寄ってきて、「高齢者の体験ができるんですか？」と声をかけられ、一安心しました。慣れない手つきで私たちは、重りなどを手首や足首に巻き、10kg近いベストとさらに視野が狭くなり、かすんで見えるゴーグルを着用してもらいました。ぎこちない歩きになるため、転倒されないかと介助に気を使いました。他の方からは、「おばあちゃんの体をわかって介護したいからね～」という声も聞かれたり、高齢者の体に関する質問もたくさんあり、疑似体験の大切さを感じました。車イス体験は若い方の体験が多く、関心の高さを伺うことが出来ました。

次回の活動も充実した有意義な活動にしたいです。

福祉事業部 林 香織



## 北陸三県PT交流会に参加して

北陸中央病院 松下 一紀

平成17年9月10日・11日に福井県福井市で北陸三県PT交流会が行われました。

1日目は、「公共の宿すかつとランド九頭竜」で懇親会が行われました。一次会では、おいしい料理を味わいながら、ゲームをして楽しみました。ゲームでは、富山県が優勝して、景品を頂くことができました。

2日目は、朝から天気がすぐれませんでした。グラウンドでソフトボールを行いました。富山県は1回戦で石川県と対戦し、残念ながら負けてしまいました。しかし、次の試合が雨天ノーゲームとなり、順位は各県の代表者による、じゃんけんに委ねられました。その結果、昨晩に続き富山県が優勝となり、またまた景品を頂きました。頂いた景品の座布団とティッシュは、今も家で役立っています。

今回、北陸三県PT交流会に初めて参加して、日頃お話できない、福井県や石川県の先生方とお話することができ、よい経験になりました。また、今回のソフトボールで私は、珍プレーばかりだったので、来年こそは、好プレーができるように、これから練習に励みたいと思います。

最後に、交流会に携わっておられた、全ての先生方のおかげで、このような楽しい時間を過ごすことができ感謝しています。



## 平成17年度 第4回 理事会報告

日時：平成17年9月6日(火)  
場所：富山市民病院リハビリテーション室  
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田  
政井 森山 川合 城戸  
大崎(書記)

### < 報告事項 >

事務局報告事項：PT協会関連(理事会議事録要約・資料など)、各都道府県士会関連、関連団体関連郵送物及び会員異動について報告。

第2回ケーススタディー報告(骨関節疾患研究会)：平成17年8月29日富山協立病院にて開催、参加費は無料で自由参加。2ケースについて検討会が行われた。

第2回研修会報告(中枢神経系研究会)：平成17年9月3・4日山田温泉病院にて講師 星文彦氏(東北文化学園大学PT)をお招きし、「理学療法テクニック～発達のアプローチ～」と題して開催、34名(会員外4名含む)が参加、実技を中心とした研修会となった。

富山県厚生部医務課訪問報告：平成17年8月9日県厚生部医務課課長と対談し、県内PTの不足状況など報告、今後当士会から要望書を提出するよう要請があった。その他：「運動器リハビリテーション料」について。

### < 検討事項 >

1. 北陸三県交流会計画(福利厚生部)：第18回北陸三県理学療法士交流会の案が提示承諾される。現在当士会会員数の増加により、県内における交流が課題と挙がった。今後三県交流会については、情報交換などを目的に役員参加のみとする意見も挙がった。
2. 人材バンクの概要について：求人問い

合わせへの対応策として検討され、具体的な企画は、年末までに福利厚生部から提出の予定である。次年度スタートを目標とする。

3. ケーススタディー計画(中枢神経系研究会)：平成17年10月1日に八尾総合病院にて、テーマ「片麻痺の評価と治療～ビデオケース・スタディー～」、講師中川仁氏(山田温泉病院PT)を予定。
4. 第3回研修会計画(生活支援系研究会)：平成17年10月16日に厚生連高岡病院にて、テーマ「補装具と自立支援～制度・作製・最近の動向～」、講師は佐野健一氏(富山県義肢製作所 義肢装具士)を予定。
5. その他：管理運営のアンケート結果は、多くの記述記載があり貴重なものとなった。学術誌「みんなの理学療法」は科学技術振興機構同様にNPO医学中央雑誌刊行会へも送付する。

## 平成17年度 第5回 理事会報告

日時：平成17年10月13日(木)  
場所：富山市民病院リハビリテーション室  
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田  
政井 堀尾 森山 川合 城戸  
河合(書記)

### < 報告事項 >

事務局報告事項：PT協会関連(理事会議事録要約など)、各都道府県士会関連、関連団体関連(日本公衆衛生協会会長表彰決定通知など)郵送物及び会員異動について報告。

第18回北陸三県理学療法士交流会報告(福利厚生部)：平成17年9月10・11日に開催された。富山県からは12名参加。理学療法教育研究会(卒後教育部)：平成17年9月10日、「記録」をテーマに開催。ノーマライゼーション推進事業『第24回

富山市民ふれあい広場」報告（福祉事業部）：平成17年9月17日に開催。高齢者模擬体験・車椅子駆動等を多くの方々に体験して頂いた。

ケース・スタディー報告（中枢神経系研究会）：平成17年10月1日に、仲川仁氏（山田温泉病院 PT）より、症例検討報告及び講義をして頂いた。

< 検討事項 >

1. 第14回病院・施設対抗ポーリング大会計画(福利厚生部)：平成17年10月29日(土)に開催予定。会員相互の交流を目的に計画された。
2. 理学療法業務管理者会議計画：平成17年11月29日に富山県総合福祉会館で開催予定。対象者は県内医療福祉施設及び福祉施設に勤務する理学療法業務管理者（約60名）で、「これからの富山県の医療につ

いて」をテーマとする。

3. 情報誌企画(広報部)：理学療法週間事業などで対外的に配布する情報誌を作成予定。
4. 第3回ケーススタディー計画（骨関節疾患研究会）：平成17年10月24日に自由参加にて開催予定。
5. 第5回循環器講習会計画(循環器研究会)：平成17年11月3日に開催予定。講師に銭谷嘉純先生などによる「心電図モニター」の見方、実技、ケーススタディーを予定。
6. 介護予防研修会計画(保険事業部)：平成17年12月4日に開催予定。平成18年度介護保険制度改定にあたり、関連職種の知識・技術の向上を目的とする。
7. その他：平成18年度事業計画作成において、基本方針・事業計画を今後検討、当士会学術誌「みんなの理学療法」をメディカルオンラインに登録する。

## 士会員の独り言 車椅子について

老人保健施設かがやき 奥田 真也

最近、車椅子に興味を持ち、講習に行ったり、専門書を読んだりするようになりました。いまでこそ車椅子は生活の中に当然あるもので、違和感を感じることは全くありませんが、僕が小さい頃には、祖父が車椅子を使っているものをみて、言葉は悪いですが「障害の対象」というか、なにか特別なものだったと感じていたような気がします。僕たちが誰か他の人の車を運転するとき、「背もたれがきつい」とか「ブレーキが遠いなあ」と感じて自分に合わせて調節したり、長距離運転をしていると腰が痛くなるから車用の低反発クッションをとりつけたりしています。同じように車椅子を使っている方たちは、一日の多くを車椅子に座って過ごされることを考えると、本当に自分の身体に合ったもので、しかも長い時間座っていても疲れたり、腰が痛くなったりしないのかなと思っています。僕たちは気付かないうちに足を組み替えたり、席を立て気分転換したりしていると思いますが、以前ある講習でモジュール型車椅子を使って、片麻痺、脊髄損傷、高度の円背や脊柱の側彎変形などの方たちにはどのように調節をすべきかということを知り、実際に調節して自分で体験してみました。なによりも一番感じたことは「楽である」ということです。姿勢の与える影響は呼吸や嚥下機能にも関わってくることで、そして現状だけでなく10年、20年先には姿勢や身体能力はどう変わっていくのかも考えることが大切と学びました。とはいっても完璧に調節可能な車椅子は値段も高く、また病院や施設におかれている車椅子のほとんどは調節どころか大きさ自体あっていないものを使用せざるを得ない場合も多いと思います。いまは車椅子に関するいろいろな知識を深めると同時に、既存の車椅子ではどうしたらもっと心地よく、姿勢よく、こぎやすく出来るかということを考えてあげられるように努力していきたいと思っています。

## 第4回リハビリテーション研修会開催

11月17日（木）、サンシップとやまにおいて、リハビリテーション研修会を開催しました。県内の特別養護老人ホームで働いている看護師、介護士、管理栄養士、言語聴覚士の30名が参加されました。今回の研修会のテーマは、「摂食・嚥下障害について」とし、講師には言語聴覚士の藤岡先生、管理栄養士の石崎先生、理学療法士の嶋先先生をお招きしました。藤岡先生の講義では、嚥下機能を高める顔面体操やマッサージを、ユーモラスに指導して下さり、大変盛り上がりました。石崎先生の講義では、実際に寒天ゼリーとゼラチンゼリーの違いを試食させて頂き、みなさんおいしそうに食べておられました。嶋先先生の講義では、誤嚥性肺炎についての説明と呼吸理学療法の紹介をして頂き、みなさん真剣に聞き入っていました。終了後のアンケートでも、「今回の研修会は良かった」という声が多く、大成功に終わることができたと思います。

広川



## 第1回管理者会議開催

平成17年11月29日14時から17時まで、サンシップとやま601号室にて、第一回管理者（理学療法士代表者）会議が開催されました。初の試みでもあるこの会議は、病院や施設などの理学療法士の代表が一同に会し、29名の代表者が参加されました。今回は最初に、富山県厚生部医務課長 栗林氏をお招きし、「これからの富山県の医療について」というテーマでお話していただきました。

次に、事前に行なった、理学療法部門代表者へのアンケート結果が、業務推進部の森田氏から報告されました。その後、5グループに分かれ「現在困っていること」についての意見交換が行なわれました。現状での問題点が多く取り上げられたこの会議では、病院や施設の中でのリハビリ部門のレベルアップに向けて、個々での取り組みはもちろん、地域でのPT同士のつながりが重要だと感じました。

みどり苑 山崎 友美





# 『教育・管理系研修会』を開催して

10月21日～22日

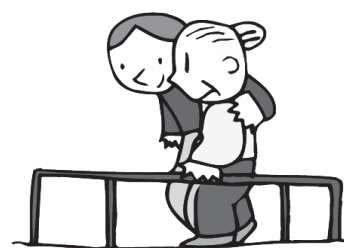
去る10月21日(金)・22日(土)の2日間、サンシップ富山にて日本理学療法士協会との共催にて『教育管理研修会 リハビリテーション部門のマネジメント - 今求められるマネジメント - 』を開催しました。全国各地より管理者クラスの方を対象に30名の参加がありました。

研修会1日目は『理学療法に今求められるマネジメント』に中屋久長氏、森本栄氏『応用分析学から見た人間関係』に山崎裕二氏、2日目に『部門の管理運営』に伊藤隆夫氏、事例検討に『リハビリテーション現場のアクシデントを検証する』に鹿内清三氏より講演していただきました。

今回、グループワークを交えた研修内容が豊富で自らで考える内容であり、より実践に近づいて考えることができるという利点がありました。アンケート結果から、参加者の中には、昨年度も参加されたリピーターもおられ、刺激を受けて帰られた方や、刺激を受け県士会や職場で還元したいと考えられた方がおられました。

今回の研修会で、それぞれの職場での管理や人間関係など様々な悩みの解決の糸口を少しでも見つけて帰られたのではないかと思います。今後も、職場の管理運営で悩まれた方などは是非参加していただきたいと思います。

小椋 直美

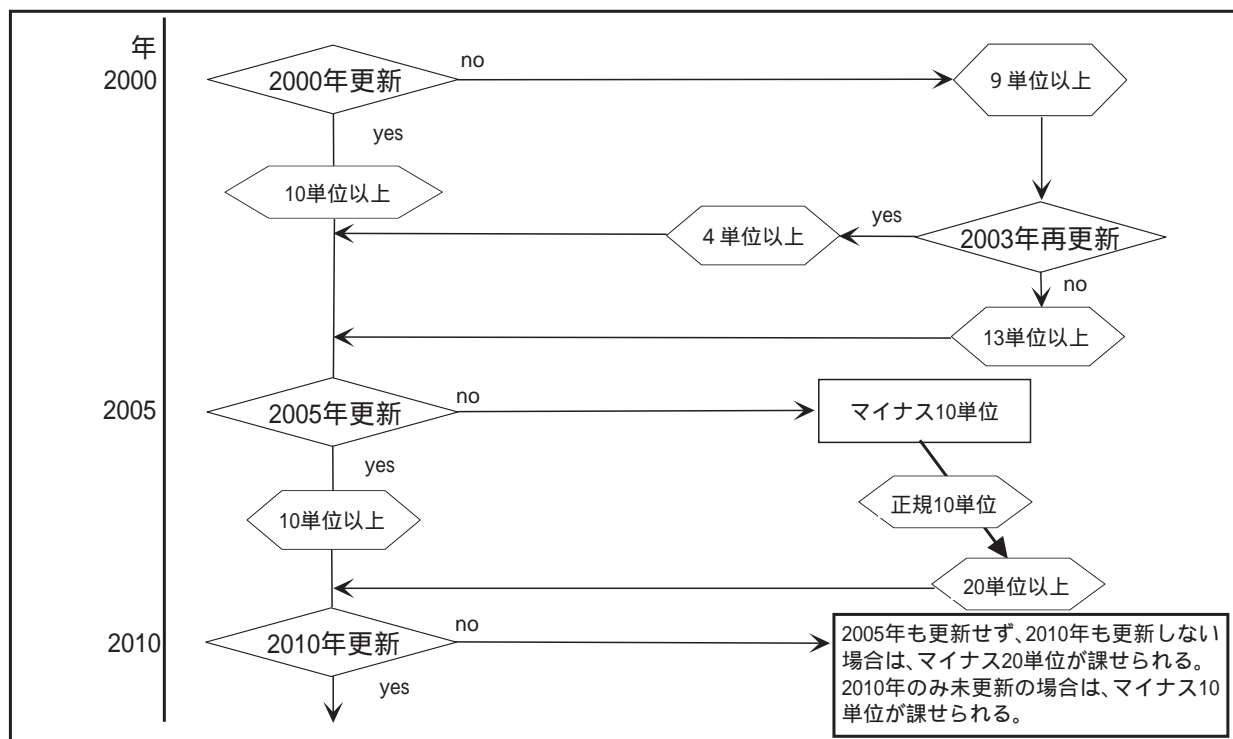


# 生涯学習委員会からのお知らせ

2005年は生涯学習基礎プログラム(以下：基礎プロ)の更新年です!!

今回は新人教育プログラム(新プロ)未修了以外の方は対象です  
単位は2000～2004年度(平成12年度～16年度)の単位が有効です

フローチャートの見方：チャート内に単位数がない方は、下の規定単位数を参照下さい。



## 規定単位数

2000年更新(免除者含)者および2000年以後生涯学習基礎プログラム開始者

新プロ1999年(H11年)度以前修了(基礎プロ2000年度以前開始(新プロ特例措置者含む))	: 10単位以上
新プロ2000年(H12年)度修了(基礎プロ2001年(H13年)度開始)	: 8単位以上
新プロ2001年(H13年)度修了(基礎プロ2002年(H14年)度開始)	: 6単位以上
新プロ2002年(H14年)度修了(基礎プロ2003年(H15年)度開始)	: 4単位以上
新プロ2003年(H15年)度修了(基礎プロ2004年(H16年)度開始)	: 2単位以上

2005年度休会中会員の取り扱い

2005年度休会中会員については、2000年～2009年の20単位のうち、休会年×2単位を減じた単位数を2010年に報告する。

註：新プロ特例措置者とは、昭和60年度以前の協会入会者をさす

○新人教育プログラム対象者で、協会主催または後援等の冠がある学会・研修会・講習会に参加された方は、その学会等を新人教育プログラム対応研修会として読み替える事ができます。参加を証明する『受講証明書』あるいは『領収書』等を士会学会や研修会時に、生涯学習手帳と一緒に提出して下さい。単位認定を致します。但し、どの単位に対応するかは委員会の方で決めさせていただきます。

会員歴10年以上を有している方で、新人教育プログラム未了の方は、症例検討、とトピックス、を除き他の履修単位6単位(但し、生涯学習の単位必修)にて新人教育プログラム終了となります。対象の方は、生涯学習委員会までご連絡ください。

士会研修会の時には、必ず、生涯学習手帳を持参して下さい。

## 平成17年度予定表 富山県理学療法士会

月	事業計画	その他の予定
1	士会新年会	
2	拡大役員会	公衆衛生学会
3	3月 第11回富山県理学療法学会 定期総会	

\*この他に新人教育プログラム計画書・士会ホームページ等参考にしてください。

### 事務局インフォメーション

#### ☆会員証の発行について☆

P T協会では会員数の増加に伴う事務処理の効率化や生涯学習における管理等の目的でクレジット機能付きの会員証を発行することを計画しております。詳細については協会からの情報待ちの段階ですが、クレジット付加の選択や賠償責任保険付加等の設定について検討され、今後会員に案内されます。

そういった情報に限らず、医療保険や介護保険の同行等も含めて協会ニュース、協会・士会のホームページ、士会ニュースを定期的にチェックし、情報のアンテナを張っておきましょう。



### 職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。

電話番号(0765)24 3999 FAX(0765)24 3684

魚津市健康センター 森山まで

E-mail : akira.moriyama@city.uozu.toyama.jp

その他、理学療法に対しての疑問点は、事務局で相談を受け付けています。事務局までメール等をお願いします。

### 情報管理部の窓口から

情報管理部では、富山県士会員の方から、士会活動の案内等、理学療法に関係があると思われる様々な記事を募集し、士会ニュース伝言板に掲載していく予定です。掲載希望の方は、富山赤十字病院 林 朝美 まで連絡をお願いします。

#### 【連絡先】

〒939-0859 富山市牛島本町2-1-58  
富山赤十字病院 リハビリテーション科  
林 朝美 まで

TEL (076) 4 3 3-2 2 2 2

FAX (076) 4 3 3-2 2 7 4

E-mail

rehabili@toyama-med.jrc.or.jp

### 編集後記

あっという間に12月になり、今年も終わろうとしています。振り返ってみて、皆さんは、どんな一年でしたか？

私、個人的には、(良くも悪くも)ここ最近にはない位、変化のある一年でした。今現在は、新しい環境に身をおいて、非常に気が張っている為か、毎年恒例行事のように、ひいていた風邪も、未だひいておりません!!

今までとは、ガラッと変わった日常に、不安もありましたが、自分なりの充実感も少しずつ感じられるようになってきました。周りの人達も責任感の強い方ばかりで、自分だけが、ボーっとしてもいられません。来年は具体的な目標たてて、自分自身を試してみようかな!?!と考える、今日この頃です。

それでは、皆さんも悔いの残らない充実した!?!一年をお過ごし下さいネ!!良いお年を